



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



「じろはったん」公演の様子



「天日槍物語」公演の様子



好きな言葉は、美空ひばりの「今日の我に明日は勝つ」

ミュージカルで 但馬をアピールしたい！

「歌って、踊って、芝居して」。但馬でミュージカルの魅力を発信し続ける元気な女性を紹介しします。

千葉みつ子さん(66歳)高屋

「ミュージカルに対する熱い思いは今も昔も変わらな」と語るのは、但馬ミュージカル研究会代表代行を務める千葉みつ子さんです。

千葉さんは、城崎町出身で、現在は高屋に住み、自宅で音楽教室を開いています。

音楽教室を始めたのは千葉さんが22歳のころ。現在、教室には、4歳から91歳までの幅広い年代の生徒が通っています。千葉さんは「さまざまな年代の方と接することで刺激をもらっています」と話します。

ミュージカルとの出会い

千葉さんがミュージカルに関わるようになったのは、45歳のころ、「但馬・理想の都の祭典」で、創作ミュージカル「天日槍物語」に出演したことがきっかけでした。そのときのことを「あふれるばかりの感動で、こんな気持ち味わったことはない。今も鮮明に覚えている」といいます。以来、ミュージカルの魅力にはまり「但馬ミュージカル研究会」の立ち上げにも関わり、今日まで活動を続けています。研究会では、発足から但馬を題材にしたミュージカルを

四つ「天日槍物語」「じろはったん」「心を繋ぐ子守唄」「こうのとりが飛ぶとき」創作しており、但馬のみならず、阪神地域でも公演し、ミュージカルで但馬をアピールしてきました。

千葉さんは「演じていると、お客さんと舞台が一体化することが感じられて、とてもうれしい」と話します。

地域を元気づけたい思い

千葉さんの活動はミュージカルにとどまらず、さまざま。年に2〜3回、市内の公民館で、高齢者を対象に「歌って健康」と題して、講演を行ったり、また月に2回、城崎・豊岡地域でコーラスの指導を行っています。

五荘地区公民館の文化祭に毎年出演し、芝居など経験したことのない地域の方と一緒に、時代劇や歌謡ショーを披露したり、高屋区敬老会では、毎年工夫を凝らして寸劇や歌を披露しています。

また、昨年6月の日本劇作家大会では「街角リーディング」に出演し、城崎温泉街の各所で朗読を行いました。こうした活動を続けるのも

「地域を元気づけたい。より多くの方と交流し、文化・芸術の面で輪を広げていきたい」との思いがあるため。

千葉さんは「私は周りの人に恵まれている。何か始めるときにはいつも誰かにサポートしてもらっている。何より家族の応援がなければ続けてこれなかった。自分の好きなことをさせてもらい、とても幸せ」と感謝を口にします。

これからの夢・目標

以前、大きな手術をし、5カ月で体重が20kg減ったこともありましたが、そうした状況でも、好きなミュージカルは続けていました。「私にとって、歌うことは生きがい。体力が続く限りやっていきたい。また、発表する場があれば、出演し、より多くの方にミュージカルを見てもらいたい」と笑顔で話します。

また、「但馬でミュージカルの灯し火を絶やさないためには、若い後継者の発掘が何よりも大切。若い人に一緒にミュージカルに出てもらいたい。そして、但馬の四つの創作ミュージカルを受け継いでいってほしい」と話します。

ま ち の 話 題

但馬ここのとり周産期医療センター竣工記念講演会
命の大切さ、家族の絆を再認識

但馬ここのとり周産期医療センターの完成を記念して、1月12日、じばさん但馬で記念講演会を開催しました。

講師は、映画監督の豪田トモさん。自分たちが生まれてきた意味や家族の絆、命や人とのつながりの大切さを伝える、映画「うまれる」が代表作です。

家族の絆や男の育児について語り、家庭を円満にする秘訣は「一緒にいることを心掛ける」「感謝や愛情を表現する」「相手の話を聞く」など、自身の体験をもとにした分かりやすい話に、集まった約180人の聴衆は、熱心に聞き入っていました。



▲吉兆の販売や甘酒も振る舞われました

宵田のえべっさん

商売繁盛、家内安全を願って!!

1月10日、西宮神社(日高町宵田)で十日えびすまつり(主催・宵田十日えびすまつり実行委員会)が開催され、前日の宵宮と合わせ約2300人が参拝しました。

9千本用意された「福くじ」には、液晶テレビなどの豪華商品や参拝者に人気のある「福笹」が用意されました。福笹は、区民の手作りで、葉が枯れても落ちないことから縁起が良いとされています。

実行委員長の久田喜三郎さんは「100年以上前から伝わる区の伝統行事。区民総出で開催しており、区民が団結するいい機会にもなっている」と話していました。



▲熱心に聞き入る聴衆

笑顔の輪

作品世界と一緒に楽しみたい

よみぢばく・いじ(豊岡)

「よみしばい・ここ」は、豊岡市民プラザ事業の「ドラマリーディング」の参加者の中から「このまま終わってしまふのはさみしい。続けたい」との声が挙がり、昨年一月に誕生しました。現在、会員は9人。

「読み芝居」中心の活動ですが、要請に応じて「紙芝居」もします。「紙芝居」は、本来一人で演じるものですが、役割分担して読み芝居風に演じています。



▲豊岡市民プラザ交流サロンで、「読み芝居」を上演

「これはラジオドラマだと思つてうきうきした。健康にもいい」「人との呼吸を考えながらするのが楽しい。自分とは違った人を演じられる」「読み芝居をしてから、多くの人の前でも気後れすることなく発言できるようになった。」と、さまざまな魅力が挙がってきました。

「読み芝居」は、台本を持ったまま演じるので、セリフを覚えなくてもよく、気軽に参加できます。また、ト書きも読むので、場面の状況がよく分かり、観客は自由想像して、自分なりに物語を描ける楽しさがあります。練習は毎月第3金曜日午前、豊岡市民プラザで。のぞいてみたい方は、岡本みち子さんまで。☎23-1716